

救急科

【一般目標】

広島大学医学部医学科の臨床実習Ⅱで広島市立広島市民病院救急科を選択した学生は、医師として将来にわたり必要となる救急診療の基本的知識・技能・態度を習得するために、ER型救急外来において各種の疾患・病態を経験する。

【到達目標（行動目標）】

知 識

- (1) 救急患者においては、気道、呼吸、循環、および意識レベルを速やかに把握し、緊急性を判断する必要があることを知る。
- (2) 次に挙げる疾患ならびに病態の診断と治療について述べる。
 - ①心停止、②重度外傷、③重症熱傷、④重症急性中毒、⑤ショック、⑥意識障害、⑦脳血管障害、⑧急性呼吸不全、⑨急性心不全・急性冠症候群、⑩敗血症・多臓器不全、⑪その他の救急疾患
- (3) 次に挙げる手技の適応と合併症を述べる。
 - ①気管挿管、②気管切開、③気管支鏡検査、④中心静脈路確保、⑤血液浄化用ブラッドアクセス挿入、⑥除細動、⑦胸腔ドレナージ、⑧胃洗浄、⑨腰椎穿刺
- (4) 人工呼吸管理の目的を知り、その適応・病態による換気モードの選択・合併症・VAP予防・離脱に必要な実践的知識を述べる。
- (5) ショックの分類と、それぞれに対する治療法の実践的知識を述べる。
- (6) 循環管理およびそれに必要なモニターに関する実践的知識を述べる。
- (7) 重症患者における体液電解質・栄養管理に関する実践的知識を述べる。
- (8) 各種血液浄化法の適応・管理の実際・合併症・離脱に必要な実践的知識を述べる。
- (9) 画像診断（単純写真、エコー、CT、MRI）の中で、救急患者で見逃してはならないポイントを述べる。
- (10) プレホスピタル・ケアの重要性を知る。
- (11) 災害医療の基本を知る。

技 能

- (12) 迅速かつ適切に救急患者の受け入れ準備を行う。
- (13) 意識レベル（JCS、GCS）を判定する。
- (14) 気道閉塞を診断する。
- (15) 換気不全・酸素化不全を診断する。
- (16) ショック状態を速やかに把握する。
- (17) 救急診療に必要な臨床検査を立案できる。
- (18) 次に挙げる疾患ならびに病態に対する診察、検査、治療を見学・補助する。
 - ①心肺停止、②重度外傷、③ショック、④意識障害、⑤重症急性中毒、⑥脳血管障害、⑦急性呼吸不全、⑧急性心不全・急性冠症候群、⑨敗血症・多臓器不全、⑩その他の救急疾患
- (19) 次に挙げる手技を見学する。

- ①気管挿管，②気管切開，③気管支鏡検査，④中心静脈路確保，
 ⑤血液浄化用ブラッドアクセス挿入，⑥除細動，⑦胸腔ドレナージ，⑧胃洗浄，⑨腰椎穿刺
 (20) 適切な症例の提示を練習する。
 (21) 病院実習中の救急救命士との交流を通じ，プレホスピタル・ケアの実際に触れる。

【注意事項】

1. 指示を待たない.
2. 好奇心を持つ.
3. 質問をする.
4. 走っても転ばない靴を着用する.
5. 一刻でも早く救急患者（急変患者）に接触する態度を身につける.

【実習の内容】

1. 種々の内因性疾患についての学習
2. Primary ABCD についての学習
3. 救急外来受診患者を通じて 問診・身体診察。診断に関し学習する。
4. 院内急変への対応についての学習
5. 初期研修医などと行動を共にして，臨床の感触を経験する.
6. 研修医早朝勉強会への参加
7. 院内外での研究会などへの参加

【週間スケジュール】

1. 週間スケジュールは，特にない.
2. 実習初日はオリエンテーションを行う.
3. 午前 8 時 30 分 **東棟 1 階救急外来受付集合**
4. 当直実習なし。

【評価】（配点計は 100 点）

評価項目	配点（点）
好奇心をもって，積極的に実習した	20
フットワーク軽く動いた.	20
診察・評価能力を習得するよう努力した	20
コミュニケーション能力の向上に努めた	20
謙虚な態度で実習した	20